

言語感覚を磨きながら、考えを広げ、 深めることのできる生徒の育成

—考えを可視化するための「分析シート」の活用を通して—

特別研修員 国語 南雲 香織（中学校教諭）

目指す生徒像

**言語感覚を磨きながら、
考えを広げ、深めることのできる生徒**



他者との交流や全体での共有を行い、
より理解を深めさせる

◎自分の考えをまとめよう

「清水流るる柳かげ」とあるので小川が近くにある道の端の柳の木陰を表している。
また、「立ち止まりつれ」とあるので、その木陰に歩いていた人が立ち止まって休
んでいるのだと思う。「しばしとてこそ」とあるので、少しの間だけ休むつもりだった
のかもしれない。「清水流るる」が涼しそうなので、そこだけ涼しいのだろう。

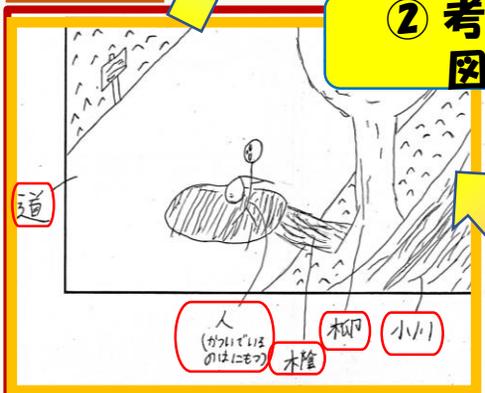
手立て「分析シートの活用」

裏面

表面

**③ 言語感覚を磨かせるために、①②を基にし、
言葉を選びながら自分の考えをまとめさせる。**

**② 考えをより具体的にするために、
図で表現させる。**



景色 青空 川が流れている 太陽が出ている 道があった 柳の木があった	心構 暑い 疲れた 休みたい 木陰が涼しいな 立ち止まるう 行かない いけない すこゝこゝ いたい
その他 夏の日だ よく晴れている 暑い日だった 歩いている途中 だった	その他 ③では、表したい ことに最も近い 言葉を選ばせる。

他者から得た
新たな気づきも
書き足させる

選んだ和歌
道の辺に清水流るる柳かげ
しばしとてこそ立ち止まりつれ

柳かげ、で句切れ
ここが印象的

立ち止まったこと
が強調されている

句切れ、表現技法なし

**① 考えを広げさせるために、
観点ごとに記述させ、
他者と交流させる。**

実践事例：3年国語
「君待つと一万葉・古今・新古今」

生徒の実態

**自分なりの思いや考えはあるものの、
曖昧なままで理解が深まりにくい**



成果

③の活動では、①の活動で得た言葉を活用し、②の活動で広げたイメージを
基に、読み取ったこと・そこから自分が考えたことなどを書くことができた。
①の分析で得た言葉を全て使うのではなく、他者との交流から、得た言葉を吟
味していくなど、言語感覚を磨きながら考えを深めている様子も見られた。

課題

③の活動では、生徒それぞれの実態に応じて支援しながら、生徒の考えの幅
を狭めないようにしていく必要がある。